



若年者に対する刑事法制の在り方に関する勉強会

若年刑法犯はなぜ減少したのか

～社会緊張理論と文化学習理論から考える～

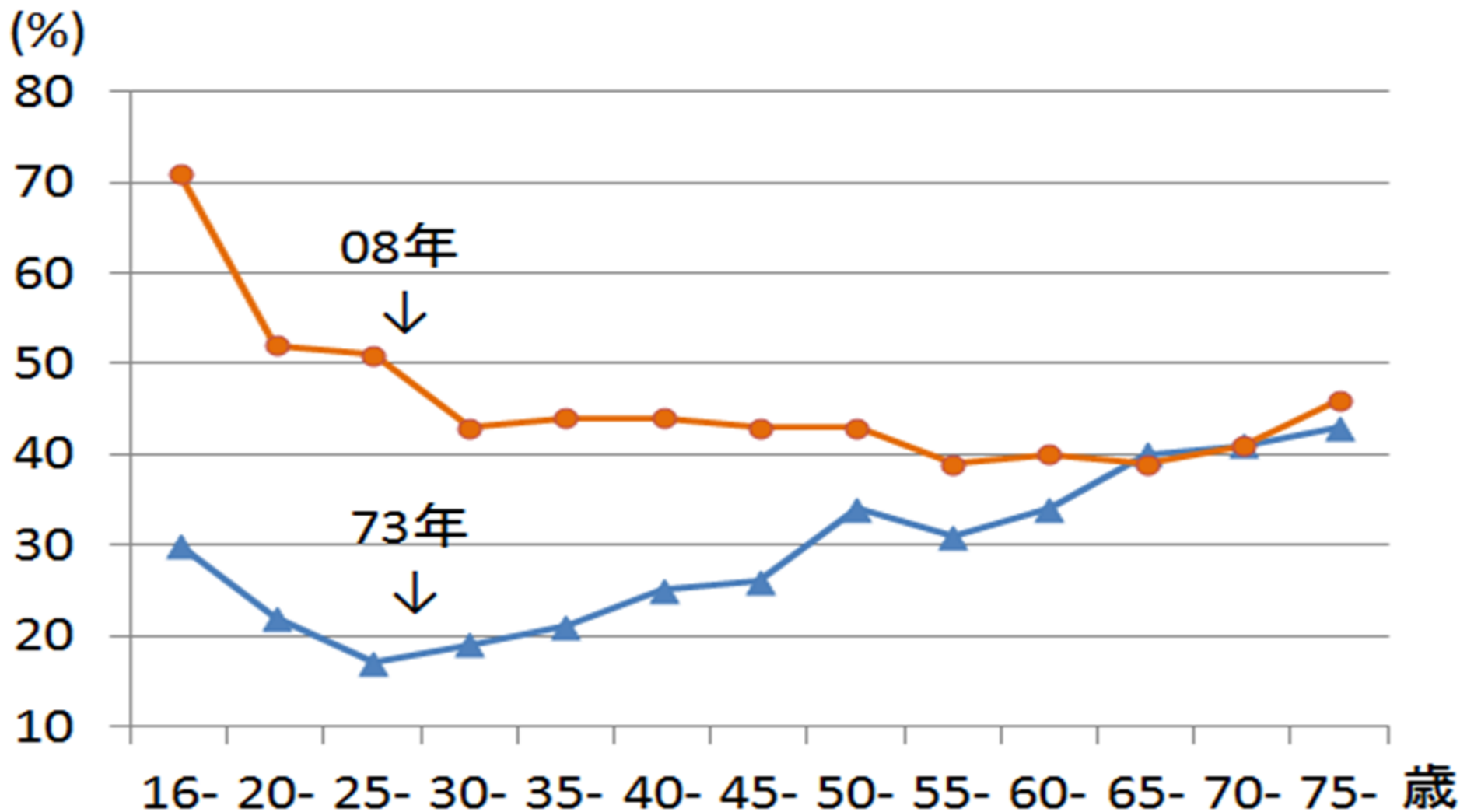
◎配布資料◎

法務省

土井隆義（筑波大学）

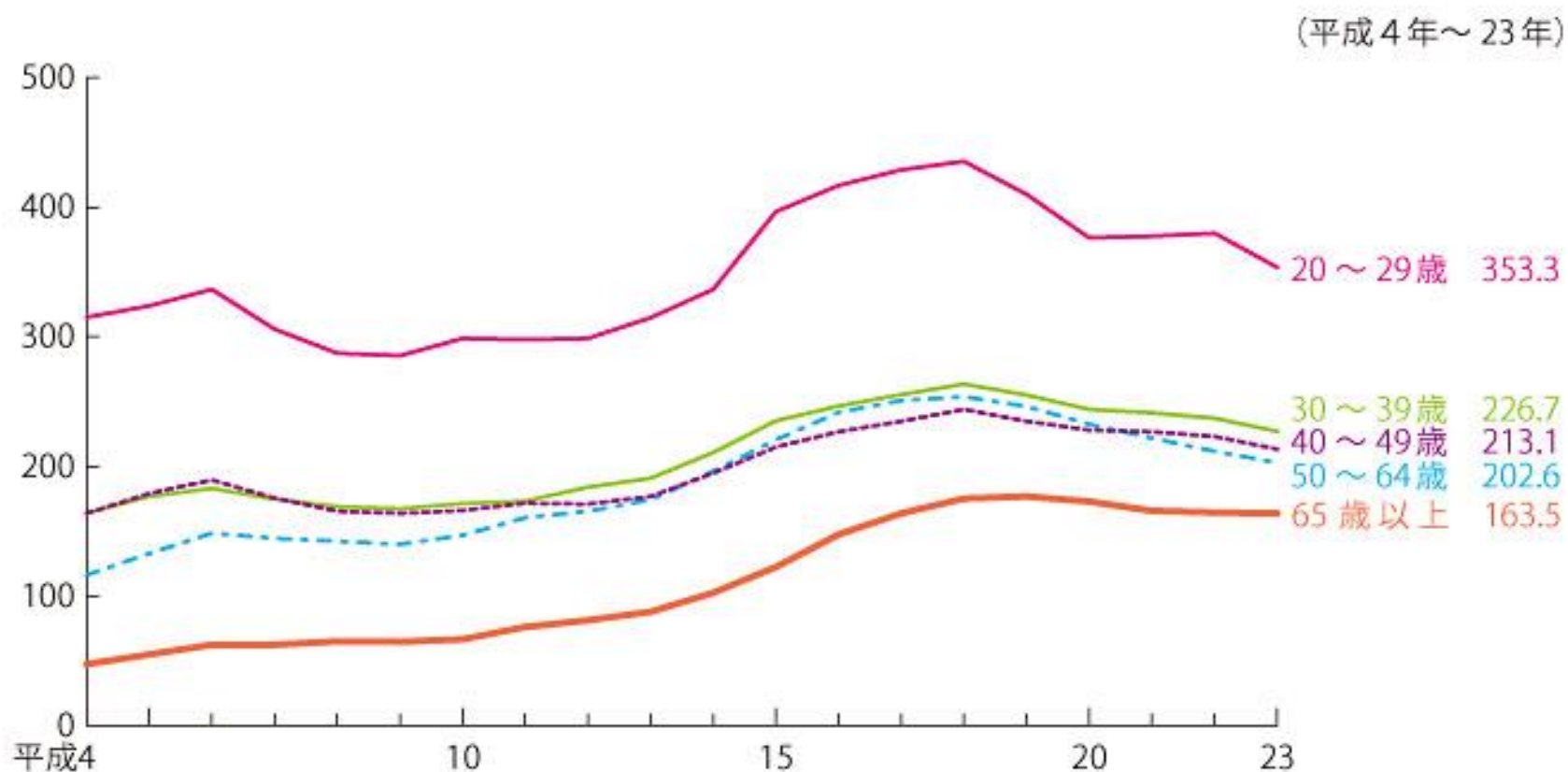
生活全般に満足割合

(『現代日本人の意識構造(第7版)』NHK出版から転載)



一般刑法犯 検挙人員の人口比の推移(年齢層別)

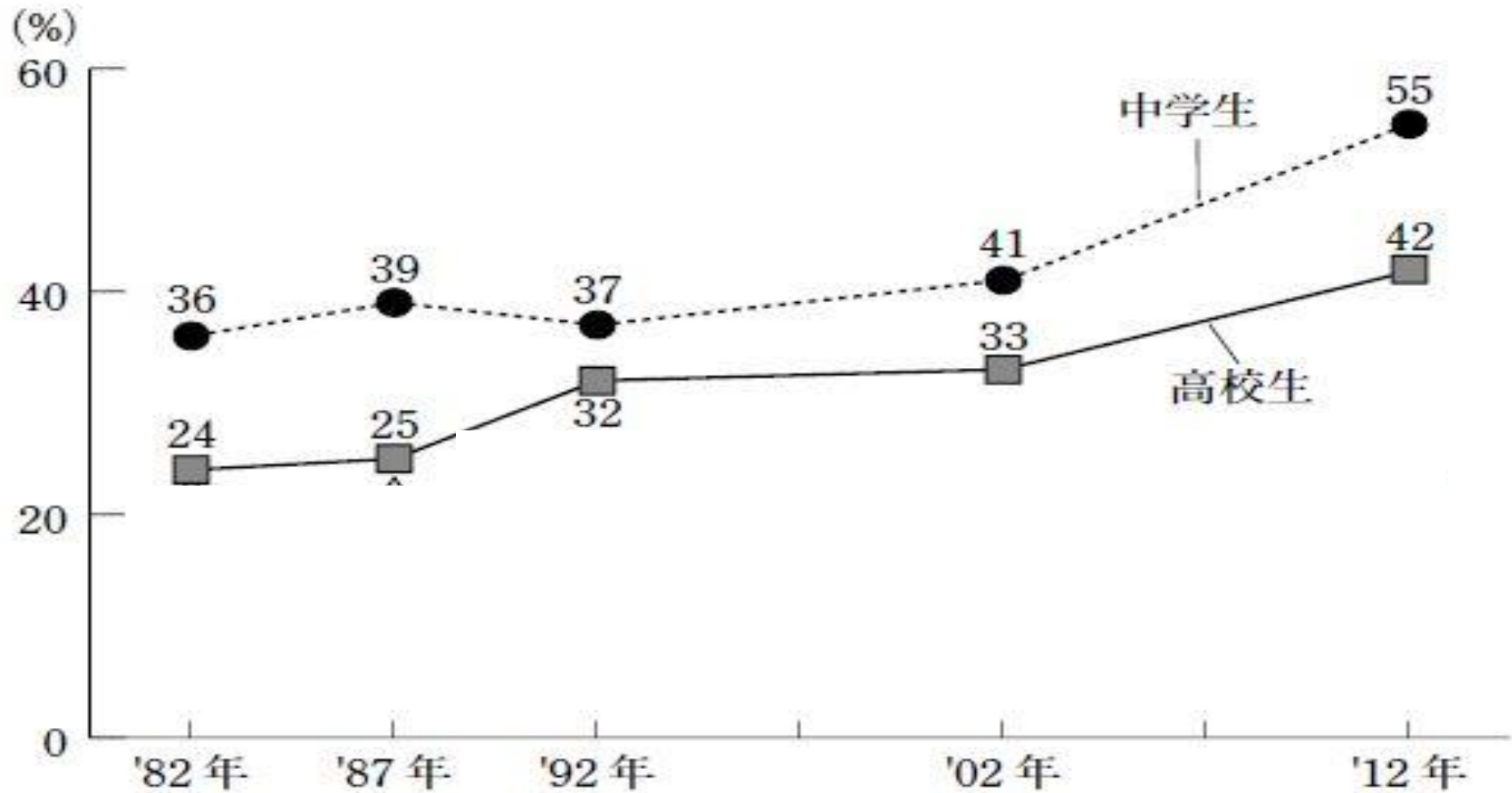
(『平成24年版 犯罪白書』第4編/第4章/第1節から転載)



- 注 1 警察庁の統計及び総務省統計局の人口資料による。
2 犯行時の年齢による。
3 「人口比」は、各年齢層10万人当たりの一般刑法犯検挙人員をいう。

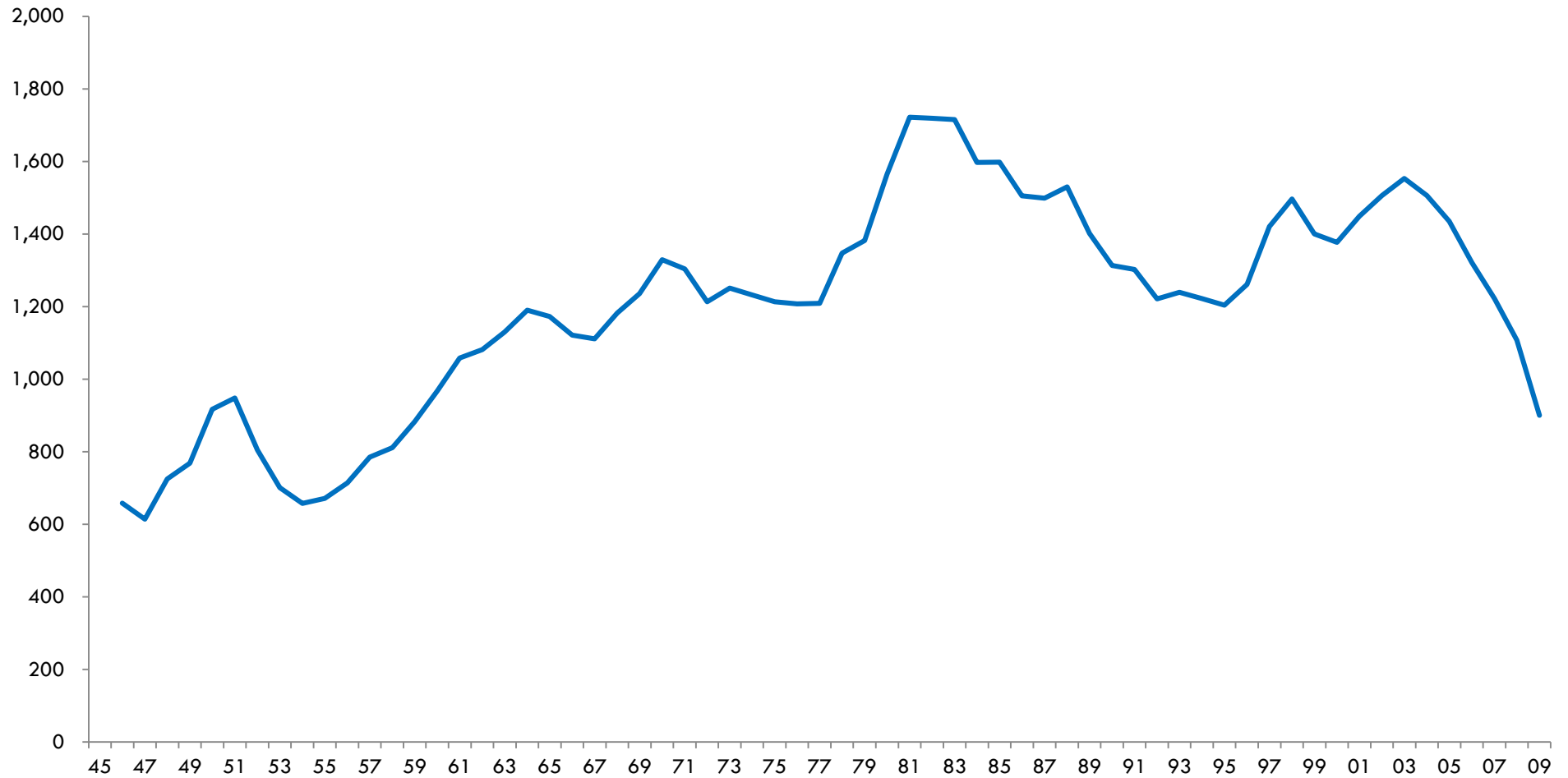
今はとても幸せだ

(NHK放送文化研究所『放送研究と調査』2013年3月号から転載)



少年刑法犯の推移(少年人口比)

(警察庁『犯罪統計書』から作成)



犯罪社会学における原因論

社会緊張理論

目標と手段の乖離
《欲望の理論》

押し出し要因
マクロ変数

不満の理論

文化学習理論

逸脱世界への接触
《関係の理論》

引き込み要因
ミクロ変数

魅惑の理論

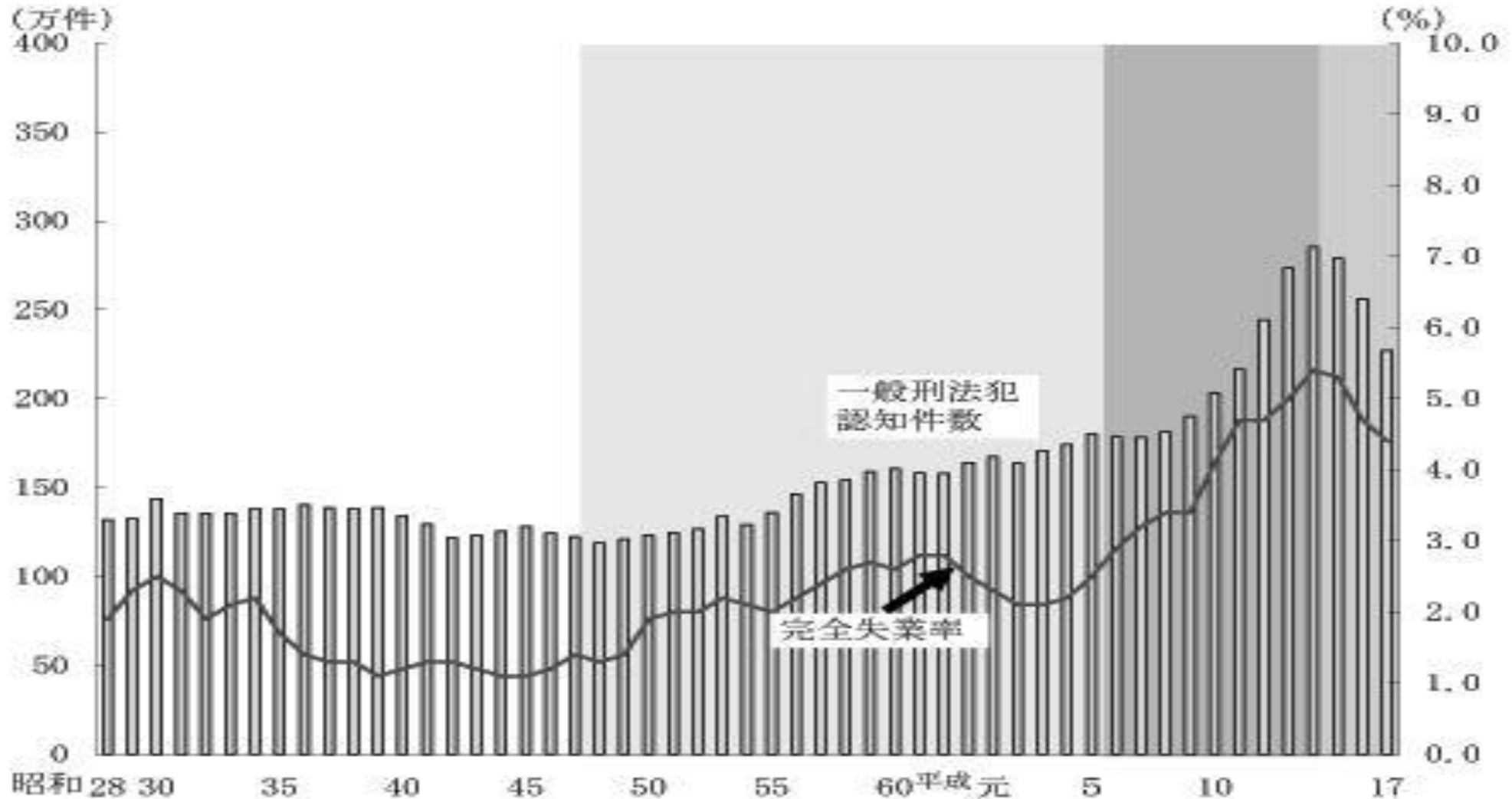
相対的不満

「貧しい人びとは、彼らを取りまく他の人びとが富んでいるときに、**高い犯罪率**を示す...彼らの周囲の人びとが貧しい場合は**低い犯罪率**を示す...したがって、特定の地域における犯罪量を説明するのに必要な鍵となる要因は、**貧しい人びとの数**ではなく、**富んだ人びとの数**である。」

G・ヴォルド, T・バーナード, 平野龍一・岩井弘融監訳『犯罪学』
東京大学出版会, 1990年, 156頁

刑法犯認知件数と失業率の推移

(近藤日出夫「最近の犯罪動向の分析」『罪と罰』日本刑事政策研究会から転載)

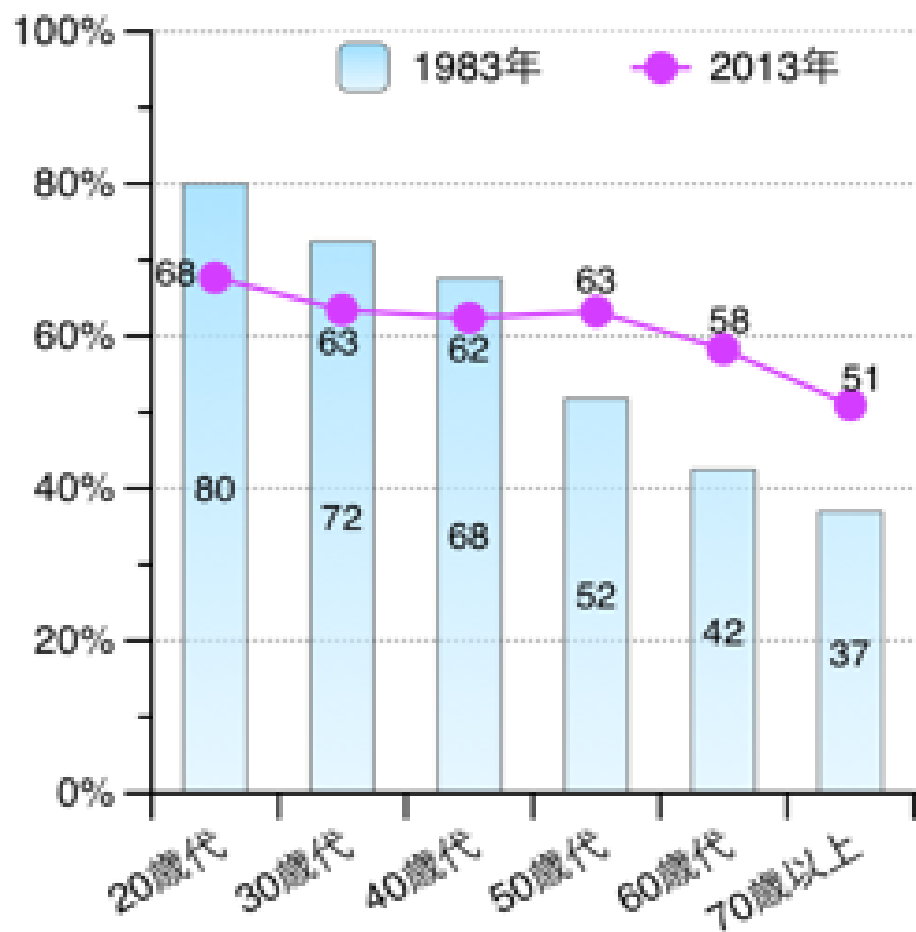


注 警察庁の統計及び総務省統計局「労働力調査年報」による。

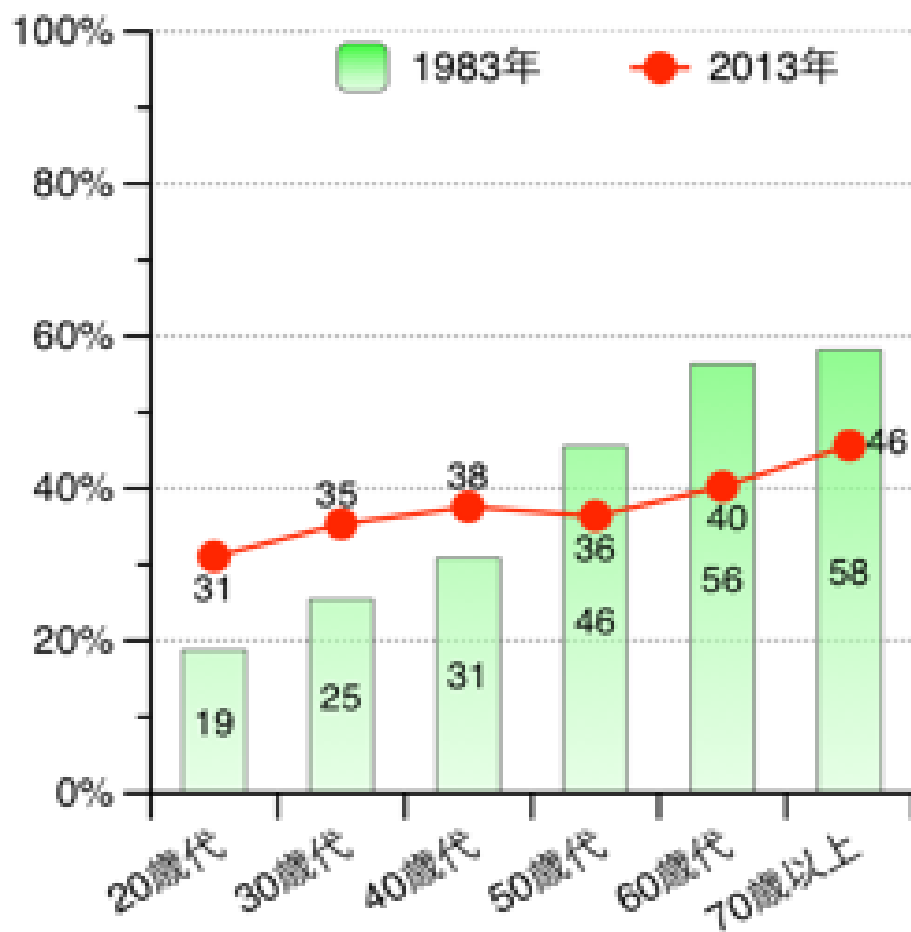
自分の可能性を試してみたいか

(統計数理研究所「日本人の国民性」調査から転載)

仕事や遊びなどで自分の可能性をためすために、できるだけ多くの経験をした

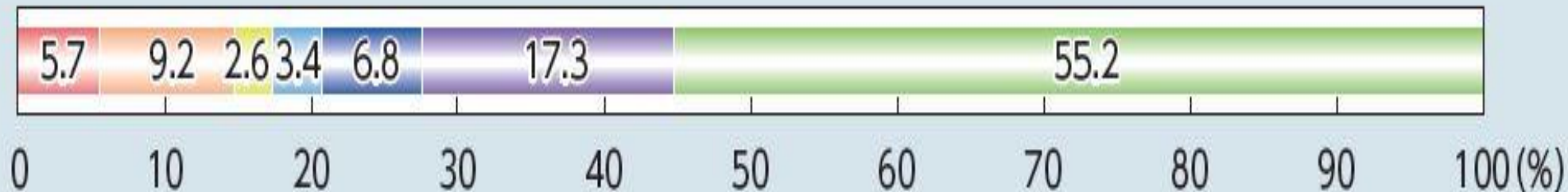


わずらわしいことはなるべく避けて、平穏無事に暮らしたい



生活に満足の原因(15歳～39歳)

(厚生労働省『平成25年度厚生労働白書』から転載)



経済的に豊かだから

その他

学業や仕事の内容が面白く、
精神的に充実しているから

好きな家族や恋人、友人などがおり、
精神的に充実しているから

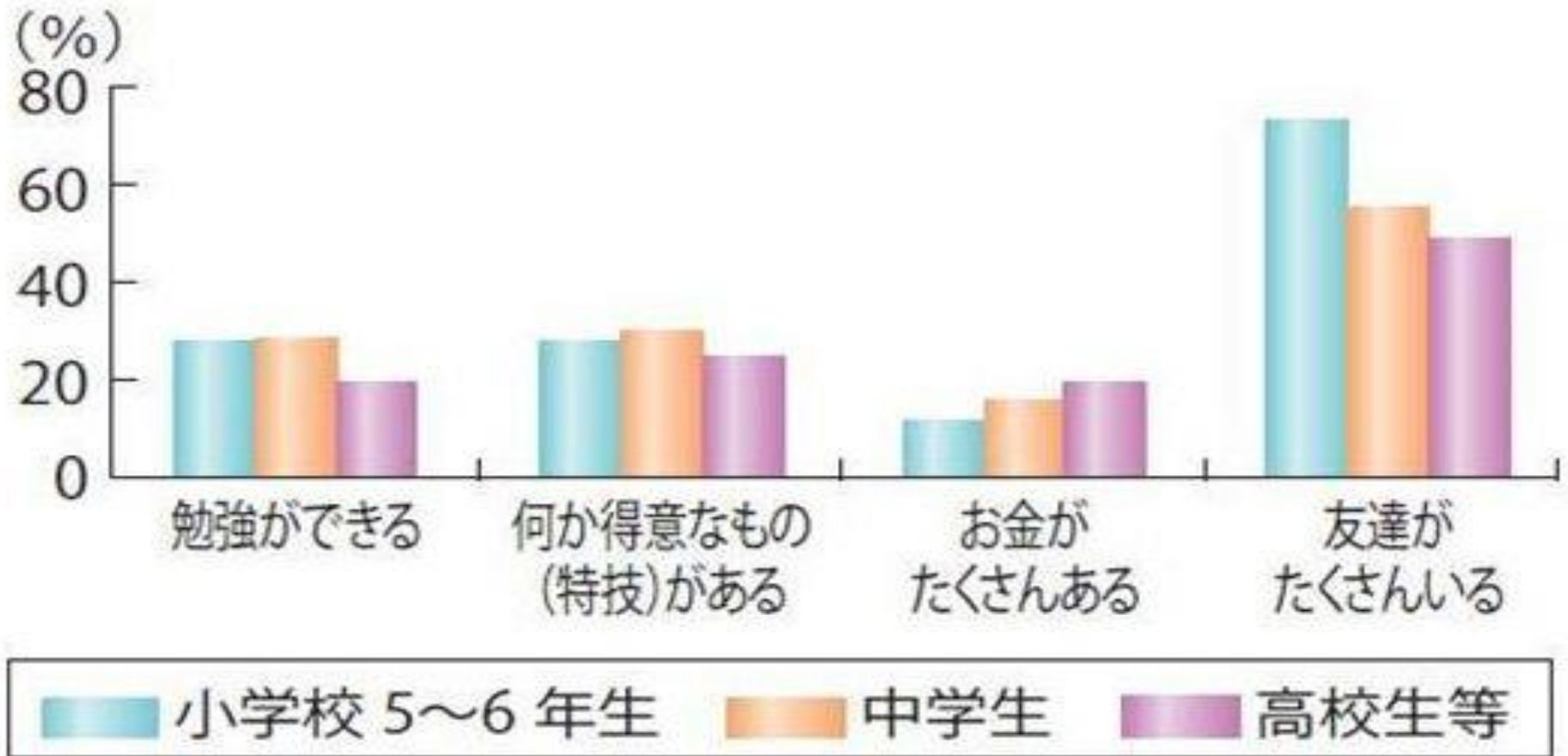
治安がよく平和だから

学業や仕事がうまくいって認められており、
精神的に充実しているから

好きな趣味があり、精神的に充実しているから

大切だと思うこと(平成21年)

(『平成25年版 子ども・若者白書』から転載)



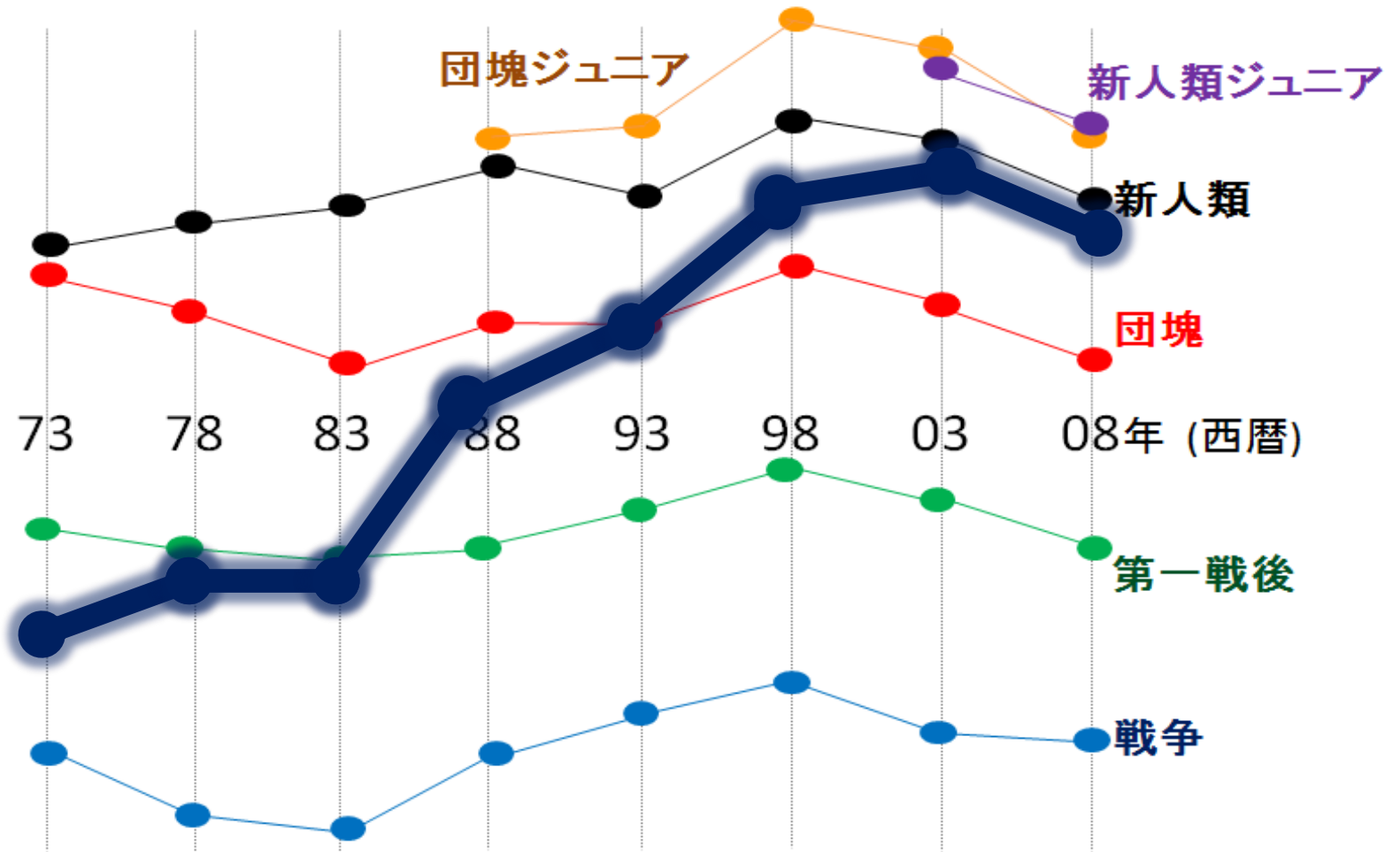
(出典) 厚生労働省「全国家庭児童調査」

日本人の意識の変化

(『現代日本人の意識構造(第7版)』NHK出版から作成)

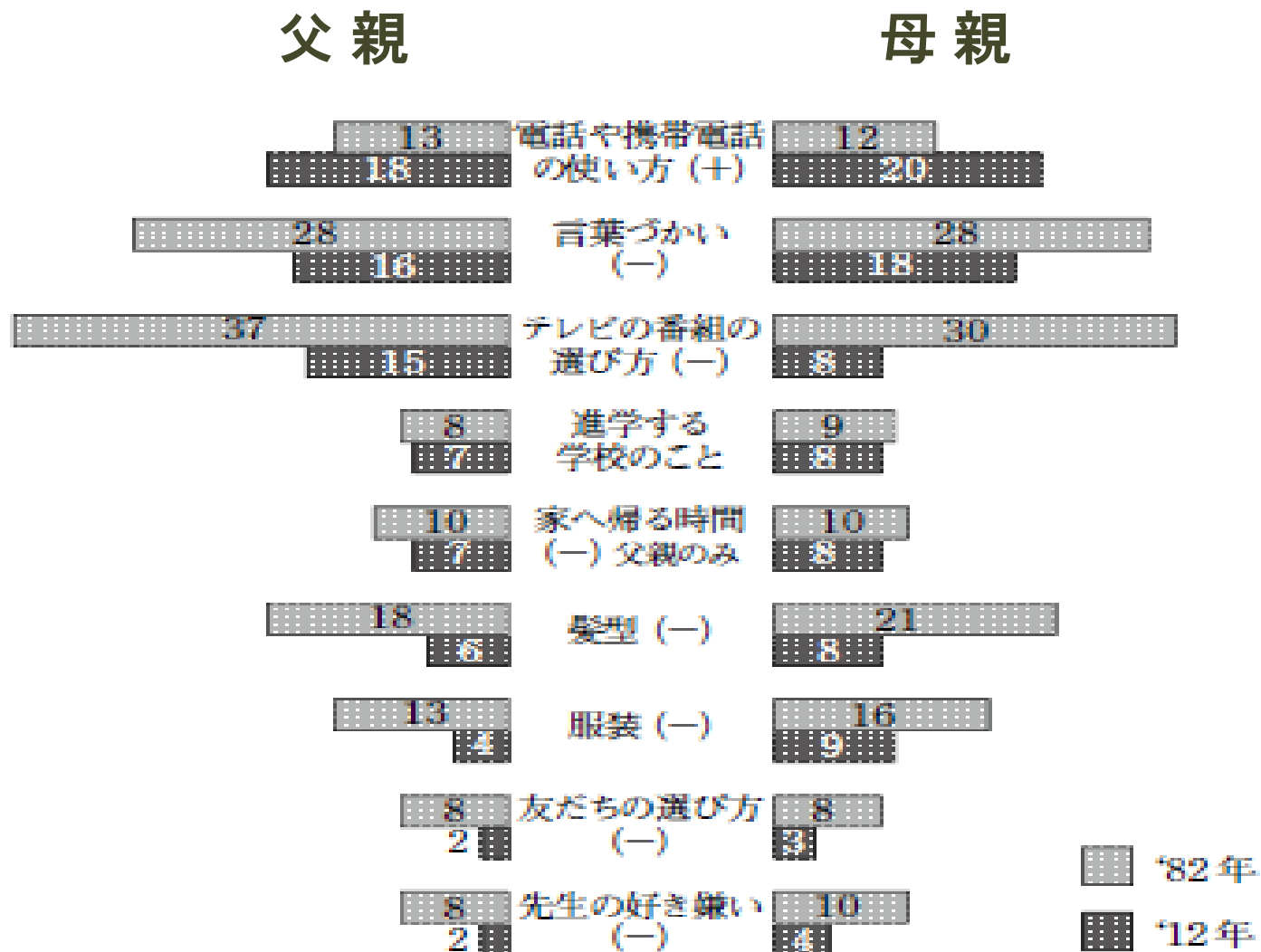
伝統離脱

伝統志向

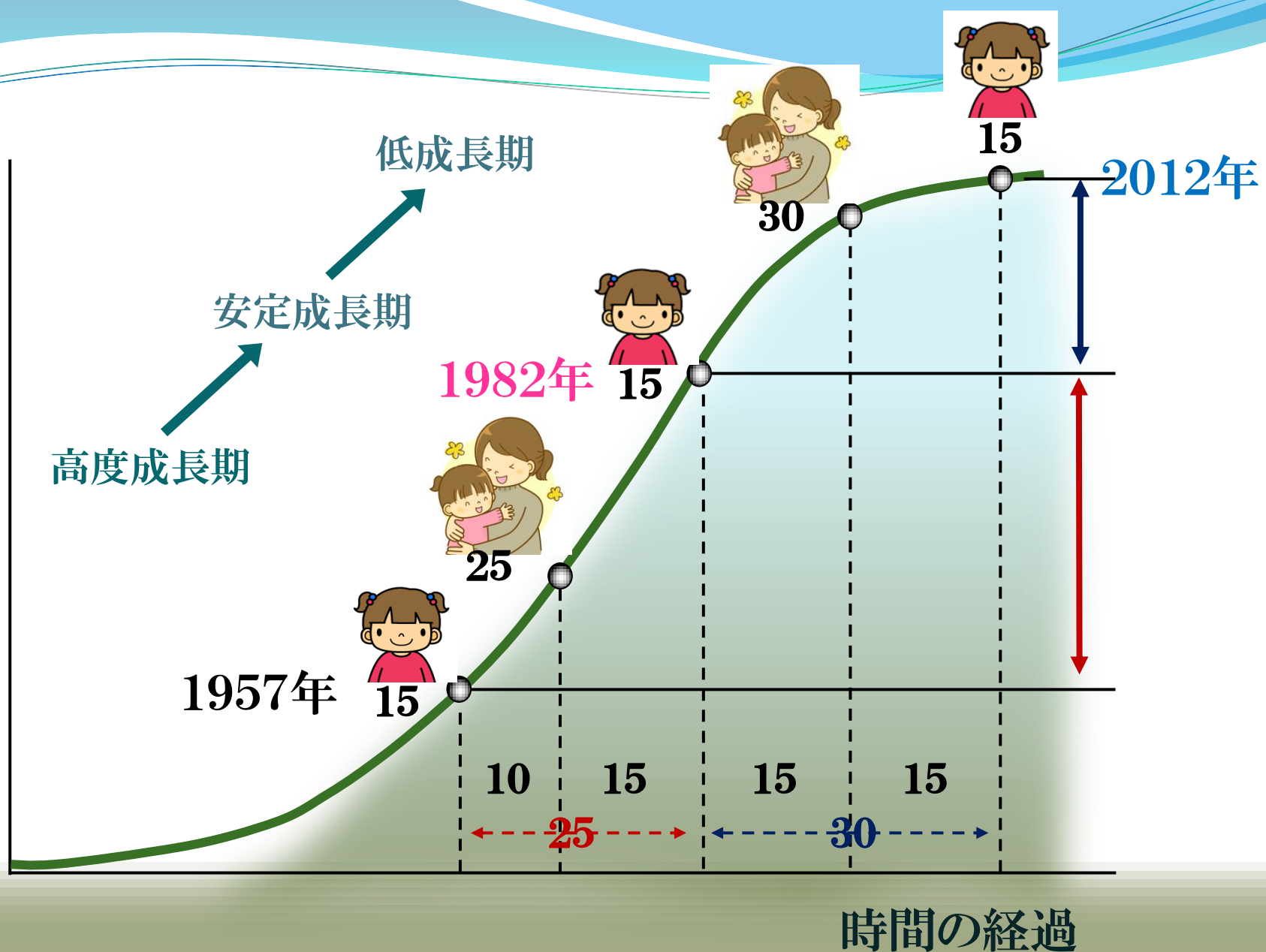


子どもと意見が合わないこと

(NHK放送文化研究所『放送研究と調査』2013年2月号から転載)



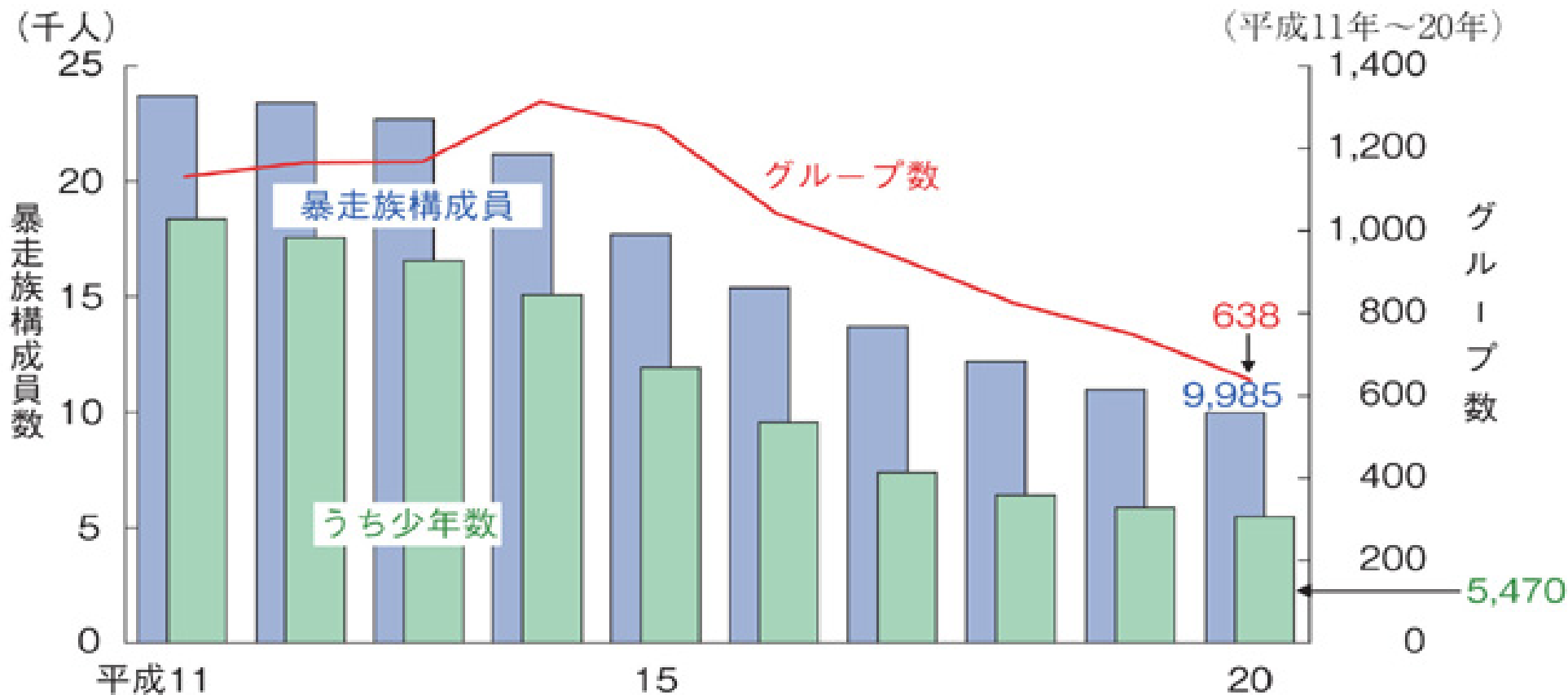
社会の成長



世代間ギャップの縮小

暴走族の構成員数・グループ数の推移

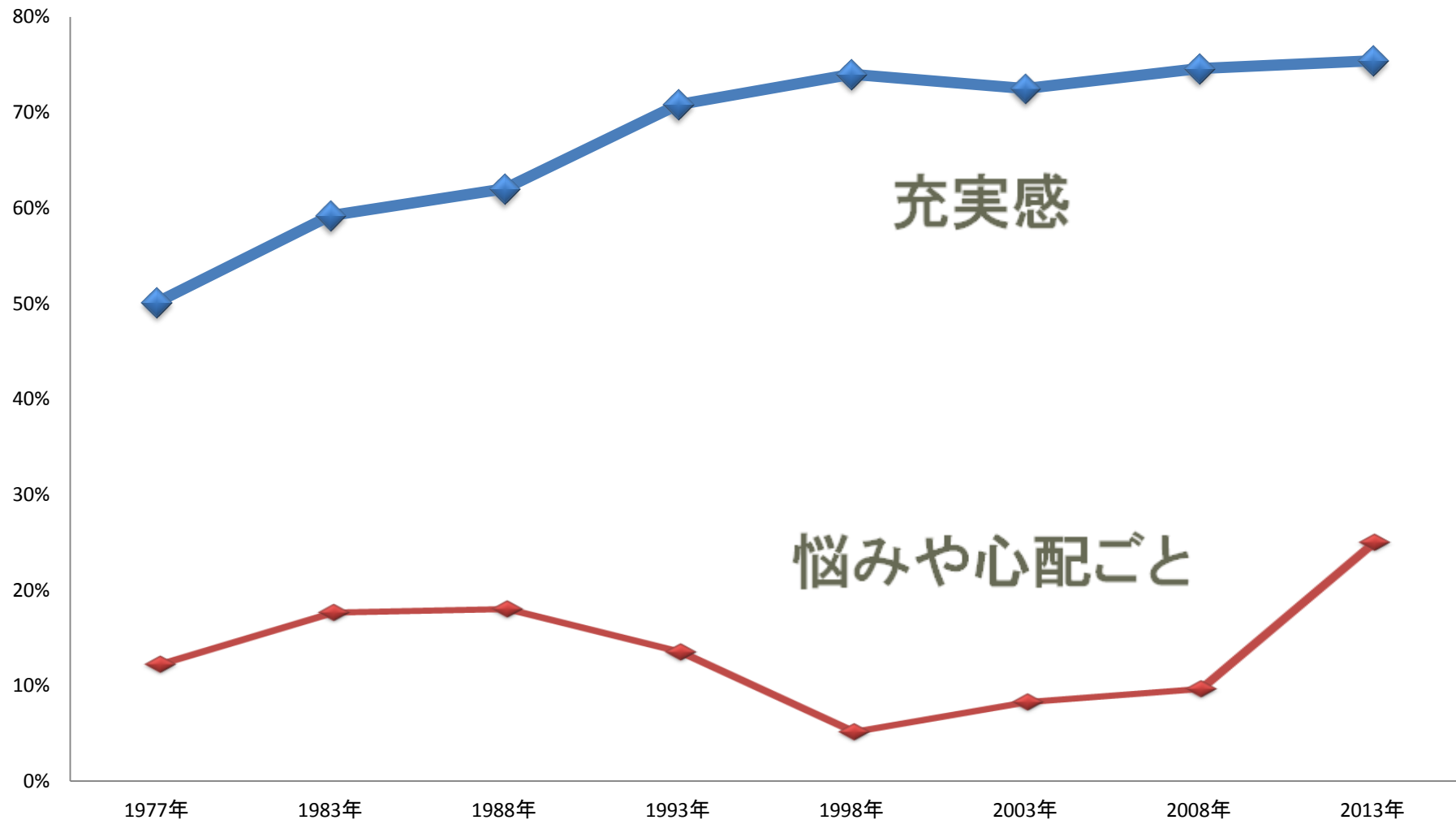
(法務省「犯罪白書」から転載)



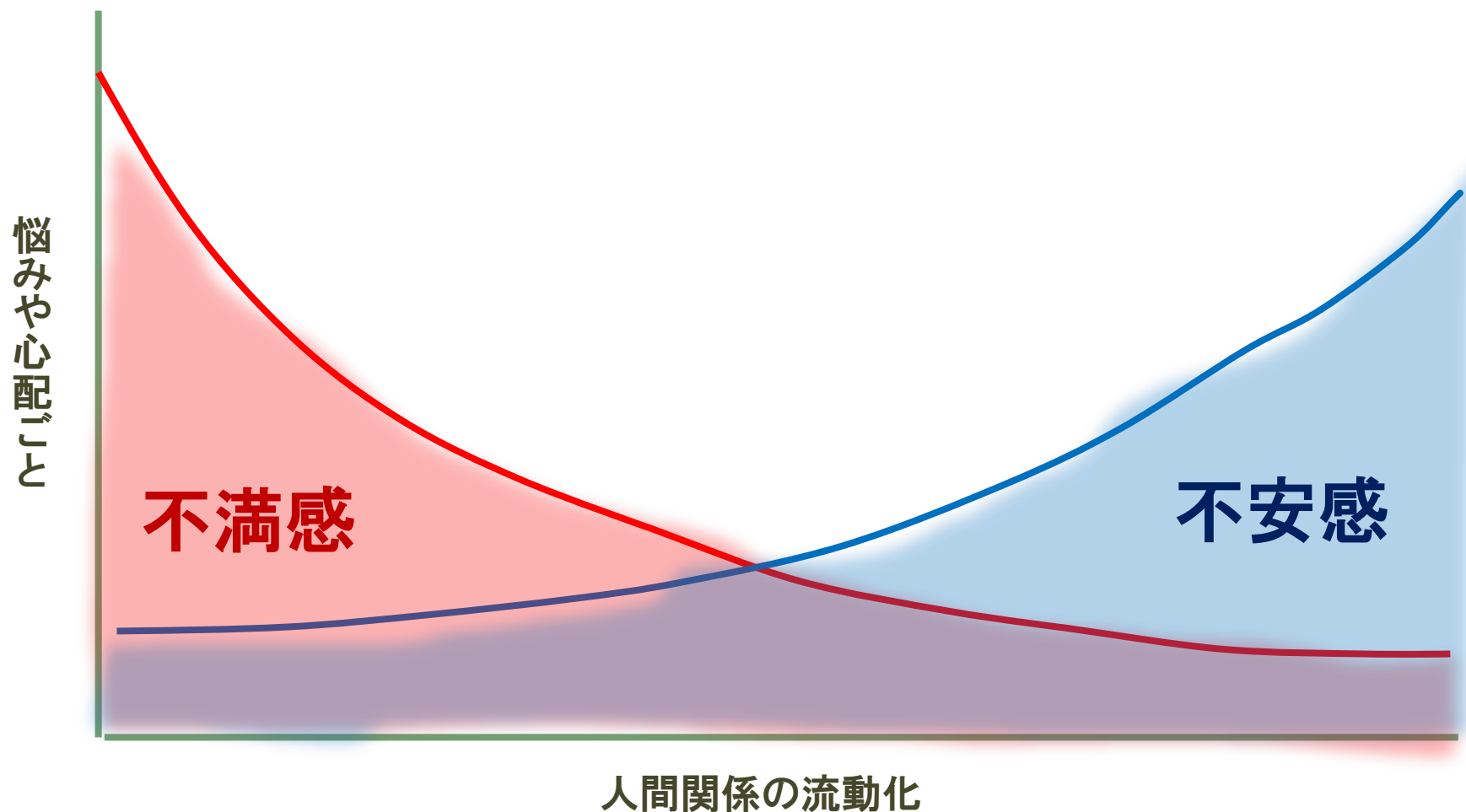
対抗文化の衰退

友人や仲間との関係に...

(内閣府「世界青年意識調査」から作成)



人間関係の流動化と悩みの質的变化



子どもの自傷行為の実態

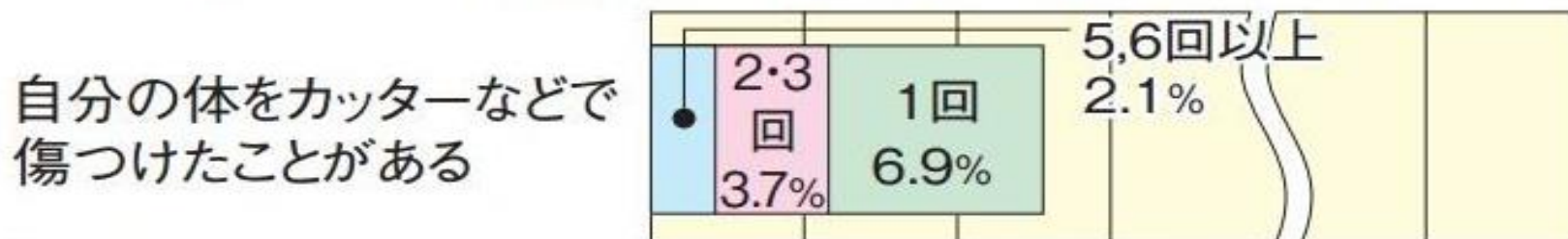
(文部科学省「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」(2009年)から転載)



(全国高等学校PTA連合会2006年意識調査,高2 6406人)



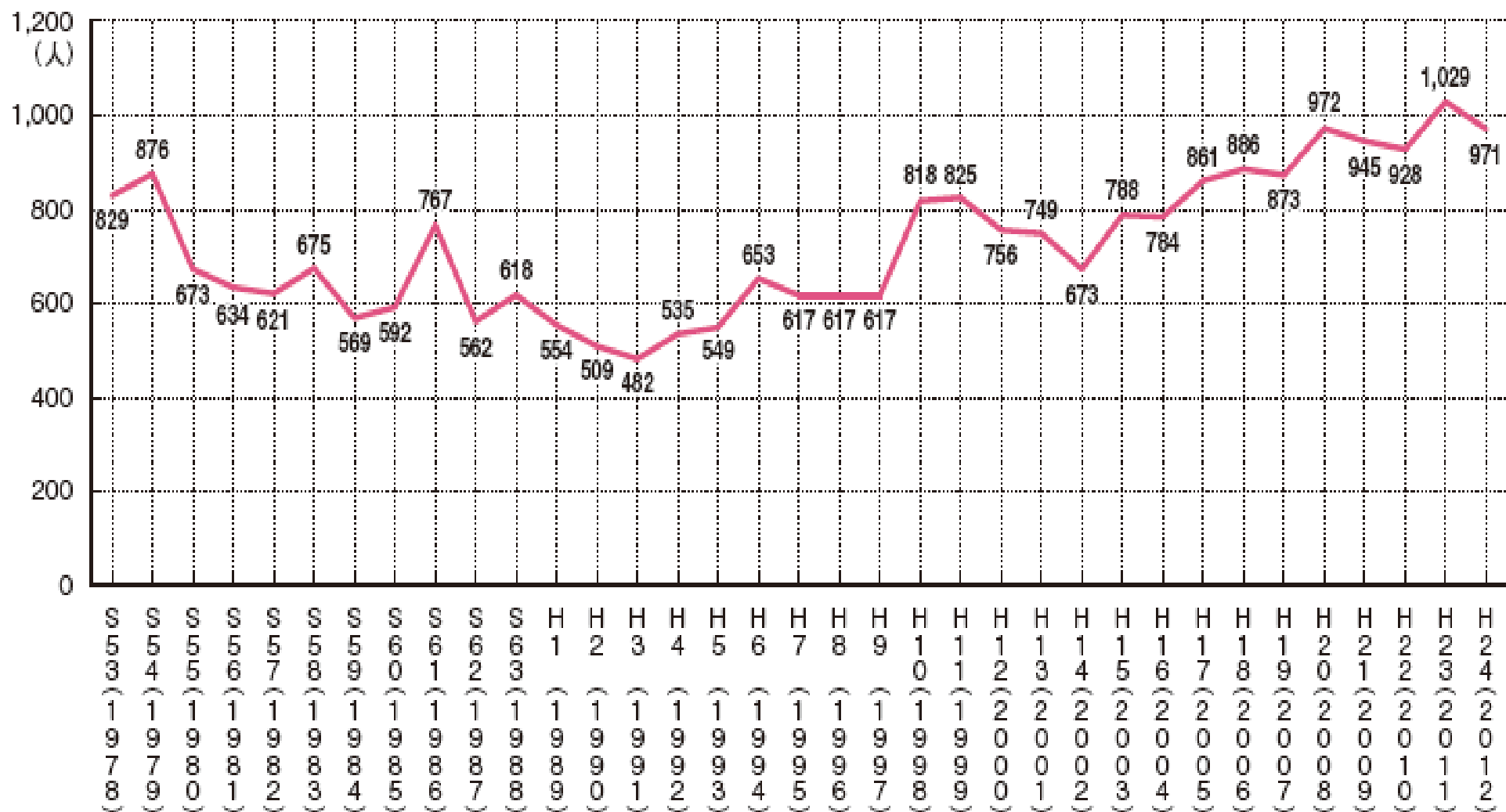
(松本俊彦・今村扶美2005～2006年調査,中・高校生 2974人
(中学生・高校生における自傷行為, Psychiatry and clinical neurosciences 62 : 2008)



(兵庫・生と死を考える会2004年調査,小5～中2 2189人
(いのちの大切さを実感させる教育のあり方, 財)21世紀ヒューマンケア研究機構,2005)

学生・生徒の自殺者数の推移

(内閣府「自殺対策」から転載)



各年齢階級の合計に占める自殺の動機の割合(平成24年)

(内閣府「自殺対策」から転載)

